資料１

クリーンセンターふたばにおける事業の進捗状況等について

令和７年３月

環境省福島地方環境事務所

現地状況

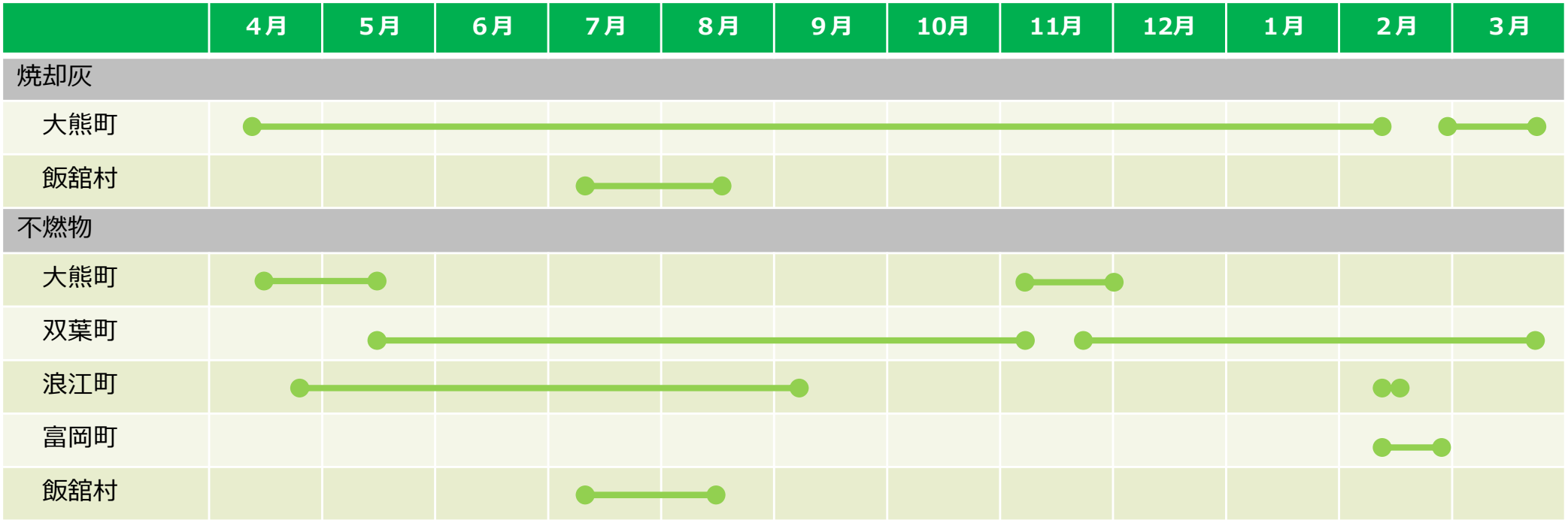
撮影日　2025年１月31日
ゲートモニター
受入処理棟
管理棟
埋立物保管施設
セメント固型化施設
不燃物封入施設
増設調整槽
２期埋立地：
主灰（焼却残さ）と不燃物を埋立中
１期埋立地：
飛灰（ばいじん）を固型化して埋立中
浸出水調整槽
浸出水処理施設
埋立物保管施設
不燃物封入施設
固型化処理施設
ゲートモニター
浸出水処理施設

令和６年度の運搬状況

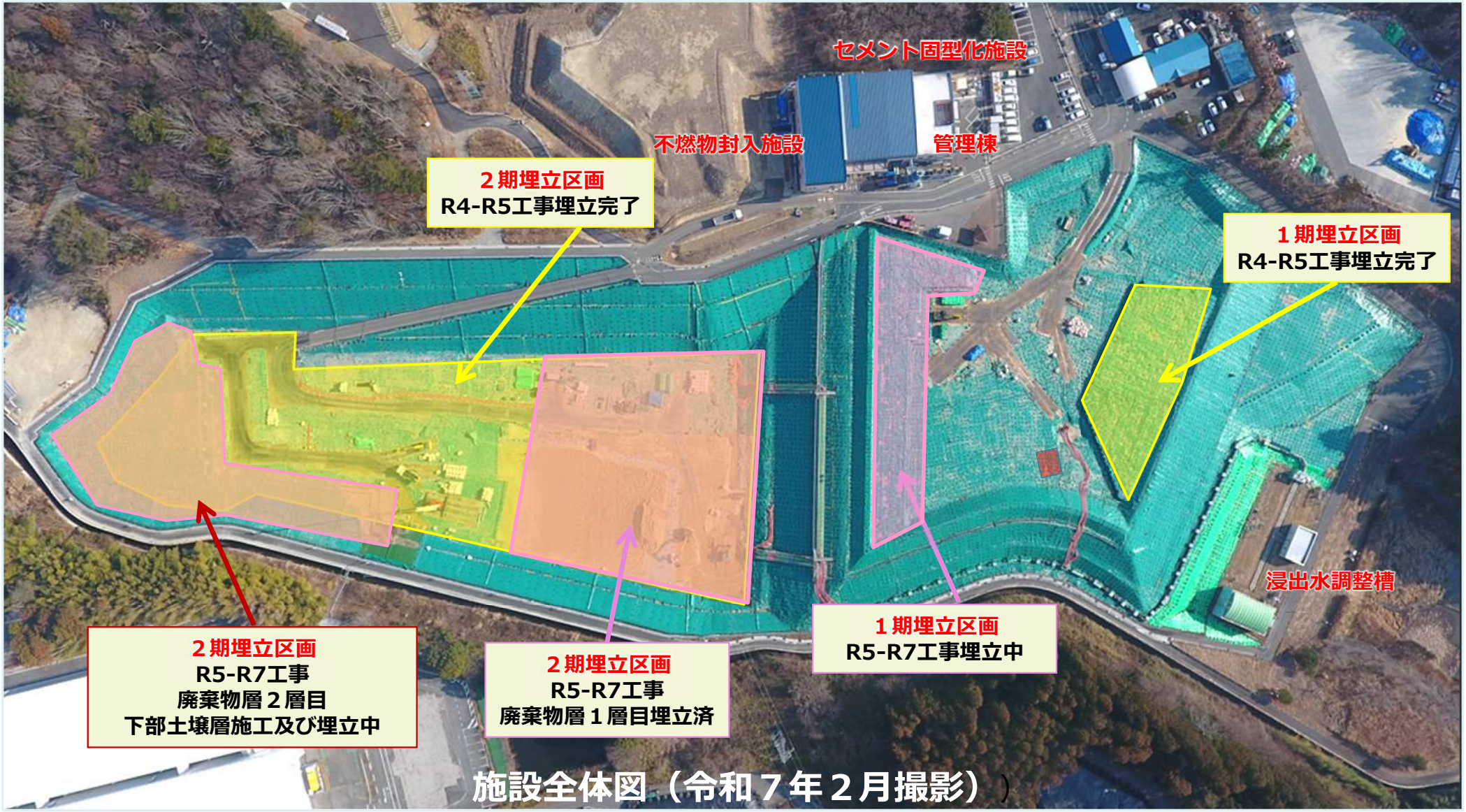
運搬実績（令和７年１月末時点）

区　分	令和５年度計（令和５年６月～）	令和６年度　運搬量（トン）											累計
		４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	年度計	
焼却灰（主灰）	12,011	1,151	1,220	1,312	959	501	1,259	790	668	1,392	1,422	10,674	22,685
焼却灰（飛灰）	2,061	140	227	207	1,256	448	175	275	126	0	88	2,942	5,003
不燃物	6,684	230	819	1,137	1,464	917	420	470	391	425	1,184	7,457	14,141
合計	20,756	1,521	2,266	2,656	3,679	1,866	1,854	1,535	1,185	1,817	2,694	21,073	41,829

※運搬量は仮置場等から中継地点への運搬も含むため、埋立量と一致しません。　※飛灰の運搬は令和６年11月15日の事故後一時停止



令和６年度の埋立処分状況



施設全体図（令和７年２月撮影）

令和６年度の埋立処分実績

埋立処分実績（令和７年１月末時点）

区　分		令和５年度計（令和５年６月～）	令和６年度　埋立量（袋）											累計
			４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	年度計	
１期埋立区画		670	94	206	224	238	159	174	250	144	12	103	1,604	2,274
２期埋立区画	主灰	5,929	816	840	960	1,089	781	676	395	446	976	1,012	7,991	13,920
	不燃物	575	123	244	316	368	256	310	336	304	336	316	2,909	3,484
合計		7,174	1,033	1,290	1,500	1,695	1,196	1,160	981	894	1,324	1,431	12,504	19,678

２期埋立区画埋立作業の様子
（令和７年３月埋立地上部北面より撮影）

１期埋立区画の埋立作業の様子
（令和７年３月あずまや前より撮影）

埋立計画数量と埋立率（令和７年１月末時点）

埋立数量（単位：㎥）

区　分	埋立可能容量（㎥）	計画数量（㎥）（計画累計（㎥）） 令和５年度	計画数量（㎥）（計画累計（㎥）） 令和６年度	実績数量（㎥）（実績累計（㎥）） 令和５年度	実績数量（㎥）（実績累計（㎥）） 令和６年度
双葉郡内の生活ごみ及びインフラ整備等の廃棄物	100,000	0 *(0)*	0 *(0)*	0	0 *(0)*
特定廃棄物	180,000	26,830 *(26,830)*	14,860 *(41,690)*	31,096	21,768 *(52,864)*
合計	280,000	26,830 *(26,830)*	14,860 *(41,690)*	31,096	21,768 *(52,864)*

※各数量には土壌層の量が含まれます　　※四捨五入のため合計が合わない場合があります
※令和５年度実績数量：令和６年２月１日時点の測量結果＋2～3月の埋立袋数の換算値
　令和６年度実績数量：令和７年１月31日時点の測量結果

埋立率（単位：%）

区　分	埋立可能容量（㎥）	計画埋立率（%） 令和５年度	計画埋立率（%） 令和６年度	埋立率（%）（実績累計/容量） 令和５年度	埋立率（%）（実績累計/容量） 令和６年度
双葉郡内の生活ごみ及びインフラ整備等の廃棄物	100,000	0	0	0	0
特定廃棄物	180,000	14.9	23.2	17.3	29.4
合計	280,000	9.6	14.9	11.1	18.9

※埋立率は、埋立可能容量に対する実績累計の割合を示します

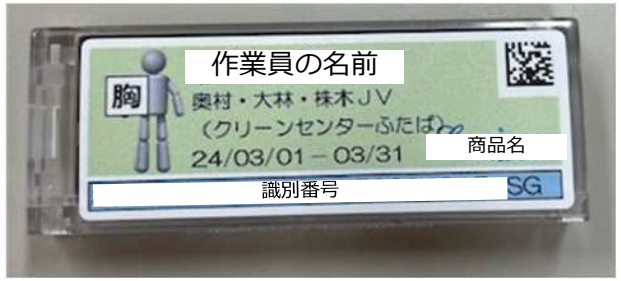
作業員の被ばく線量管理

(1) 測定方法

- クリーンセンターふたば及び各積込場所での作業者は、ガラスバッジ線量計と電子ポケット線量計の２種類の線量計を併用して測定・記録しています。
  - ➢ガラスバッジ線量計：１か月毎の線量を測定し、累積被ばく量を放射線管理手帳に記録
    →放射線従事者中央登録センターへ登録
  - ➢電子ポケット線量計：１日毎の線量を測定し、当月の被ばく量を把握
- 輸送車両の運転手は、ガラスバッジ線量計で測定・記録しています。

被ばく線量の測定方法

作業区分	被ばく線量の測定方法
埋立処分場内作業者（処分場）	ガラスバッジ線量計を携行し、１か月毎の被ばく線量を測定→放管手帳に記録し、中央登録センターへ登録
	電子ポケット線量計を携行し１日毎の被ばく線量を把握
埋立処分場外作業者（各積込場所）	ガラスバッジ線量計を携行し、１か月毎の被ばく線量を測定→放管手帳に記録し、中央登録センターへ登録
	電子ポケット線量計を携行し１日毎の被ばく線量を把握
輸送車両の運転手	ガラスバッジ線量計を携行し、１か月毎の被ばく線量を測定→放管手帳に記録し、中央登録センターへ登録



ガラスバッジ

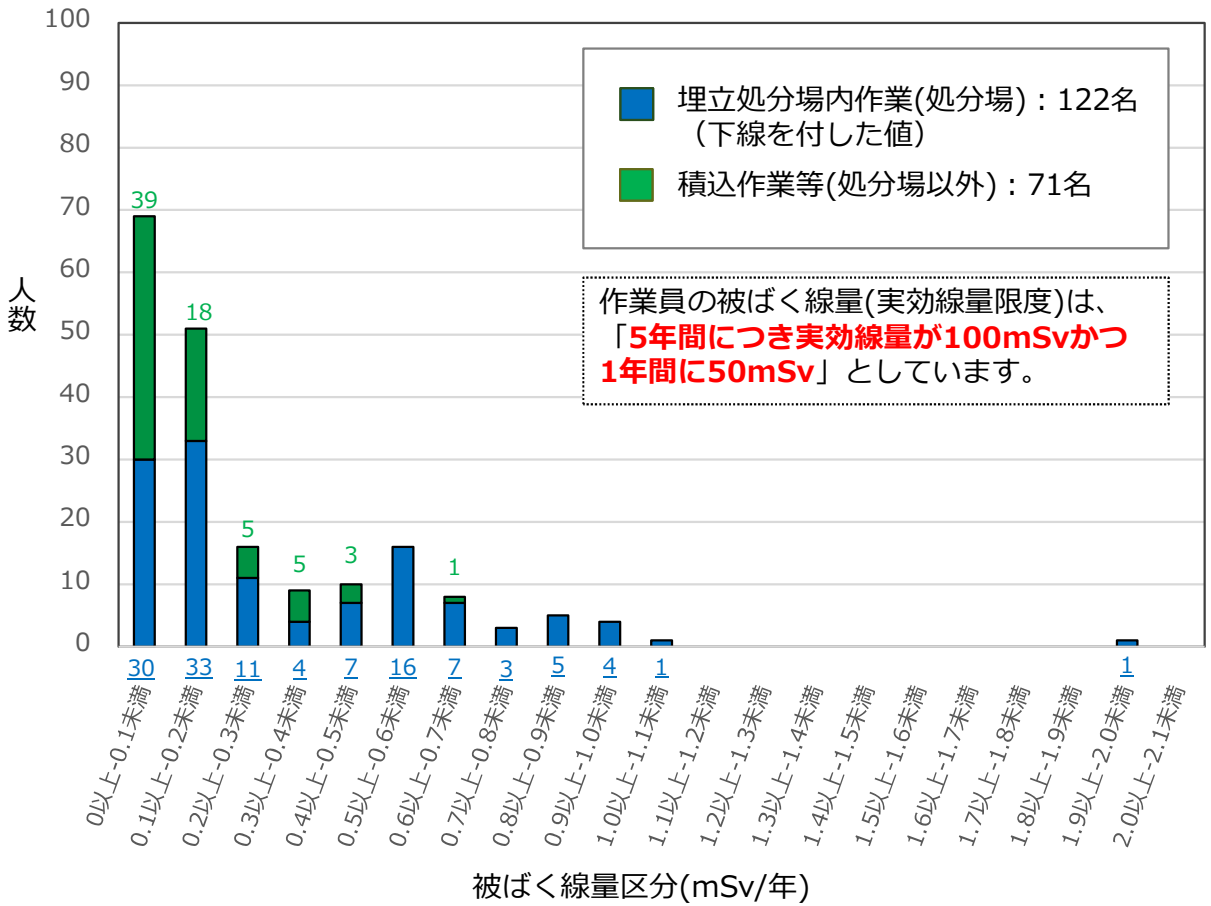
電子ポケット線量計

作業員の被ばく線量管理

(2) 測定結果

① 埋立処分場内作業(処分場)、積込作業等(処分場以外)
（ガラスバッジ線量計による測定結果）

令和６年６月～令和７年１月の測定結果



令和５年６月～令和７年１月の測定結果

被ばく線量区分（mSv/年）	令和５年６月～令和６年５月		令和６年６月～令和７年１月	
	埋立処分場内作業	積込作業等	埋立処分場内作業	積込作業等
3.0以上-3.1未満		1		
2.9以上-3.0未満				
2.8以上-2.9未満		1		
2.7以上-2.8未満		1		
2.6以上-2.7未満				
2.5以上-2.6未満				
2.4以上-2.5未満				
2.3以上-2.4未満	1			
2.2以上-2.3未満				
2.1以上-2.2未満				
2.0以上-2.1未満				
1.9以上-2.0未満			1	
1.8以上-1.9未満	1	1		
1.7以上-1.8未満	1	1		
1.6以上-1.7未満	3			
1.5以上-1.6未満	3			
1.4以上-1.5未満				
1.3以上-1.4未満	3	2		
1.2以上-1.3未満	2	2		
1.1以上-1.2未満	6	4		
1.0以上-1.1未満	3	1	1	
0.9以上-1.0未満	5		4	
0.8以上-0.9未満	7	2	5	
0.7以上-0.8未満	5	4	3	
0.6以上-0.7未満	7	6	7	1
0.5以上-0.6未満	9	6	16	
0.4以上-0.5未満	7	4	7	3
0.3以上-0.4未満	12	9	4	5
0.2以上-0.3未満	17	2	11	5
0.1以上-0.2未満	36	10	33	18
0以上-0.1未満	66	19	30	39

※ 埋立開始時期を起点として集計。　　表中単位：人

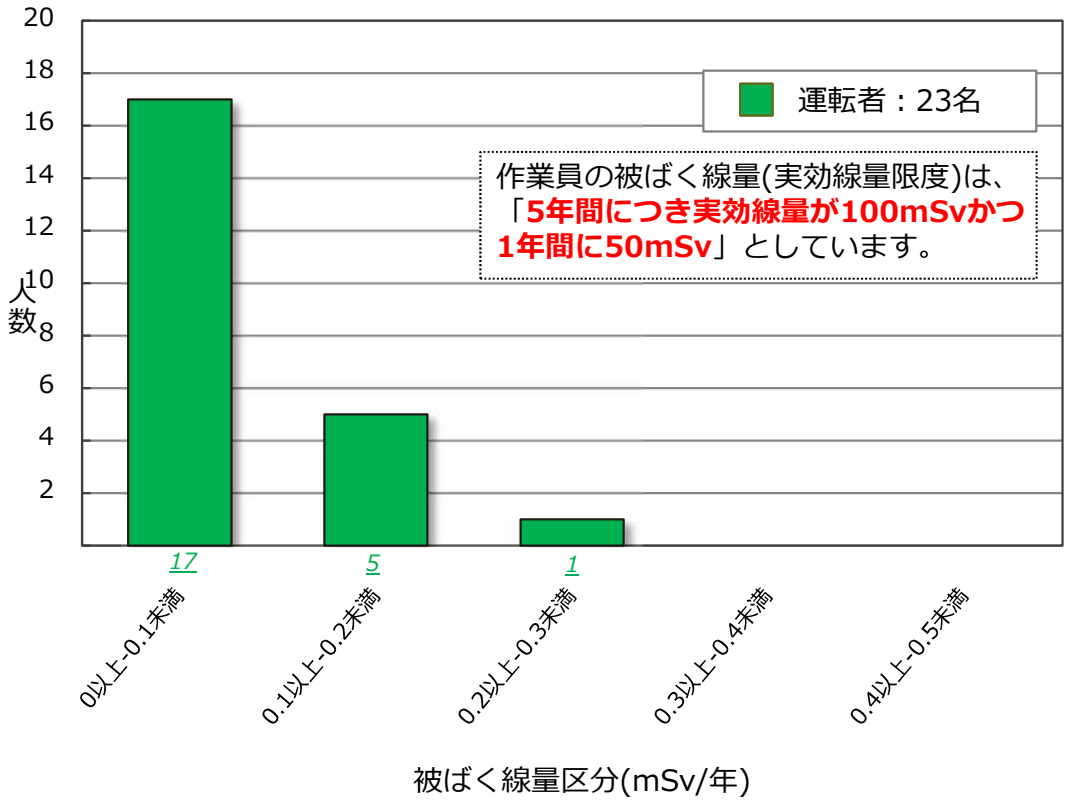
作業員の被ばく線量管理

(2) 測定結果

②運転者

（ガラスバッジ線量計による測定結果）

令和６年６月～令和７年１月の測定結果



令和５年６月～令和７年１月の測定結果

被ばく線量区分（mSv/年）	令和５年６月～令和６年５月 運転者	令和６年６月～令和７年１月 運転者
2.6以上-2.7未満		
2.5以上-2.6未満		
2.4以上-2.5未満		
2.3以上-2.4未満		
2.2以上-2.3未満		
2.1以上-2.2未満		
2.0以上-2.1未満		
1.9以上-2.0未満		
1.8以上-1.9未満		
1.7以上-1.8未満		
1.6以上-1.7未満		
1.5以上-1.6未満		
1.4以上-1.5未満		
1.3以上-1.4未満		
1.2以上-1.3未満		
1.1以上-1.2未満		
1.0以上-1.1未満		
0.9以上-1.0未満		
0.8以上-0.9未満		
0.7以上-0.8未満		
0.6以上-0.7未満		
0.5以上-0.6未満	1	
0.4以上-0.5未満	3	
0.3以上-0.4未満	4	
0.2以上-0.3未満	4	1
0.1以上-0.2未満	5	5
0以上-0.1未満	7	17

※ 埋立開始時期を起点として集計。　　表中単位：人

固型化施設におけるコンベヤ巻き込まれ事故について

クリーンセンターふたばのセメント固型化施設において、メンテナンス作業中に、作業員が原料飛灰を搬送するコンベヤに右腕を巻き込まれる事故が発生しました。

セメント固型化施設全景

セメント固型化施設事故発生現場

事故発生状況（再現）

＜発生日時＞ 令和６年11月15日（金）14時45分頃

＜発生場所＞ クリーンセンターふたばセメント固型化施設

＜事故内容＞

破袋・破砕作業に従事する作業員が、破袋・破砕作業終了後、メンテナンス作業のため原料飛灰を搬送するコンベヤの防護カバーを外し、コンベヤを稼働させたまま、防錆・潤滑剤をスプレー缶で噴射していたところ、スプレー缶がコンベヤフレームの支持アングルとフライト（平板）の間に挟まり、右腕ごと巻き込まれたもの

＜被 災 者＞ 35歳男性(経験年数13年、当現場経験８か月)

＜被災状況＞ 右上腕骨遠位端開放骨折

固型化施設におけるコンベヤ巻き込まれ事故について

◎事故原因

- 破袋・破砕作業中、**過負荷電流でコンベヤが４回停止**していたことから、被災者が当日の作業計画にないコンベヤのメンテナンス作業を実施していました
- 被災者は**予定外作業に当たるとの認識がなく**、事前に職長や現場代理人の承諾を得ずに**単独で**作業を行っていました
- メンテナンス作業手順書では電源停止後にメンテナンス作業を行うこととしているにも関わらず、**コンベヤを稼働させたまま作業**を行っていました

◎主な再発防止策

- コンベヤの防護カバーへの施錠や安全装置（インターロック）※、カメラ及び確認用モニターの追加設置等の設備対策

  ※固型化施設のすべてのコンベヤ（８箇所）及び同種作業を行う設備に安全装置を設置

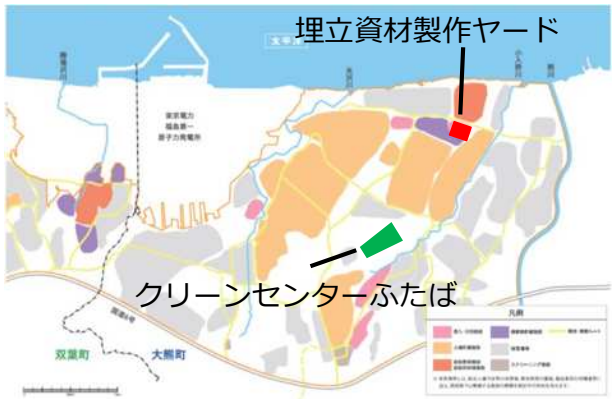
- メンテナンス作業手順書、メンテナンス作業実施基準・頻度の見直し
- 予定外作業発生時の承認フローの周知・再教育
- 環境省監督職員、元請職員による巡視頻度の増加

インターロック

確認用モニター

クリーンセンターふたば工事におけるスクリュー挟まれ事故について

クリーンセンターふたばで使用する埋立資材の製作ヤードにおいて、設備の修繕作業の準備中に、作業員がスクリューに右手を挟まれる事故が発生しました。事故原因の究明を行い、再発防止策が確実に講じられるまでの間は作業を中止いたします。



事故発生現場位置関係図

埋立資材製作設備全景

事故発生状況（再現）

事故発生点検口

＜発生日時＞ 令和７年３月12日（水）11時45分頃

＜発生場所＞クリーンセンターふたば埋立資材製作ヤード（旧大熊３工区受入・分別施設敷地内）

＜事故内容＞埋立資材の製作作業に従事する作業員が、材料となる溶融スラグを供給するスクリューの修繕作業の準備のため、スクリュー内の溶融スラグを排出する目的で点検口に右手を入れ、右手指が挟まれたもの

＜被 災 者＞ 59歳男性（経験年数30年、当現場経験10か月）

＜被災状況＞右手挫滅創　被災者は現在いわき市医療センターで入院治療中（約一か月）

クリーンセンターふたば工事におけるスクリュー挟まれ事故について

◎事故原因

- 午前中の資材製作作業においてスクリューの過負荷による異音が発生していたため、午後にスクリューの修繕作業を行うべく、職長から現場代理人への予定外作業の報告を行っていました。スクリューの修繕には、その準備としてスクリュー内の溶融スラグの排出が必要となることから、職長の判断で予定外作業の承認を得る前に排出作業を開始してしまいました。

- 作業手順書では、スクリューからの溶融スラグの排出は電源を落とした状態で行うこととしていましたが、実際には電源を入れてスクリューの正回転、逆回転を行う必要があり、作業手順書が実態に即していませんでした。

- 溶融スラグの排出作業には工具を使用することとしていましたが、被災者は電源が落ちていることの確認が不十分なまま、直接手を入れてしまいました。

◎事故後の措置

＜関係機関等への連絡状況＞

- 双葉警察署、富岡労働基準監督署に通報
- 双葉地方広域市町村圏組合、大熊町、福島県、小入野行政区長に連絡

＜今後の対応＞

- 再発防止策が確実に講じられるまでの間、作業を休止させます
- 徹底した原因究明を行い、再発防止策を検討・実施します

令和７年度の埋立処分方針

令和７年度搬出方針

（１）搬出計画数量

- 日あたり搬出予定台数：　20～30台/日（令和６年度平均搬出台数と同程度）
- 搬出予定袋数：　約25,000袋

（２）搬出元町村

- 主灰・飛灰：　大熊町、浪江町
- 不燃物：　大熊町、双葉町、浪江町、富岡町

※状況に応じて変更の可能性があります。
※記載順は搬出順とは異なります。

令和７年度埋立計画

- １期埋立地：　2,240袋
- ２期埋立地：　10,394袋

※計画値は日処理能力に稼働予定日数を掛けて算出